

Title	死に対峙している魂の苦悩にどのように応えるか：ホスピスの現場から 実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News：2014 年度 聖 学院大学総合研究所 カウンセリング研究センター主催：スピリチュア ルケア研究講演会）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24-No.1, 2014.9 : 47-50
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5154
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

総合研究所 News

2014年度 聖学院大学総合研究所
カウンセリング研究センター 主催
スピリチュアルケア研究講演会

死に対峙している魂の苦悩にどのように応えるか —ホスピスの現場から— 実施結果—アンケート集計結果の概要

今、ガンの治療は日進月歩で進んでいます。しかし、今でも終末期ガンは治療ができません。そこで、高い技術だけではなく、患者の満足度が問題になっています。患者さんに仕える医療が医療への満足度を高めると言われています。下稲葉康之先生は早くから患者へのスピリチュアルケアを実践されてこられました。ご自身が医師であり牧師である下稲葉康之先生から患者さんとの関わり方を学びたいと願います。

日時：2014年4月25日（金）14:00～16:30

場所：聖学院大学ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

開会の挨拶

■講演

「死に対峙している魂の苦悩にどのように応えるか—ホスピスの現場から—」

下稲葉 康之（栄光病院理事長・名誉ホスピス長）

司会

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授・聖学院大学人間福祉学部子ども心理学科長）

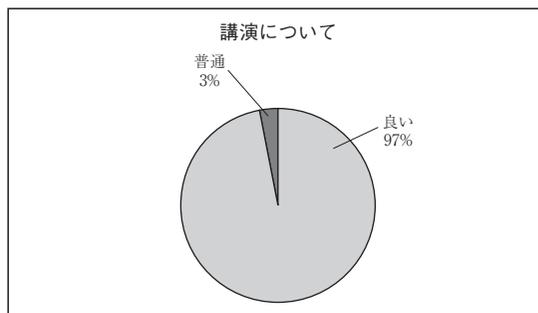
質疑応答

【結果の概要】

- ・参加者は90名。内、アンケート回答者が48名。
- ・講演については、「良い」が97%と高い評価を得

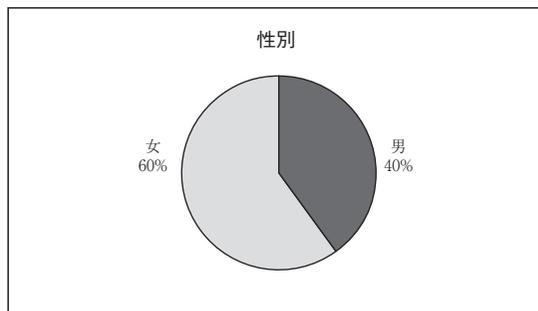
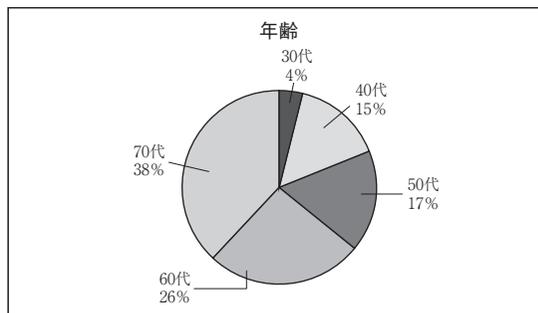
た。

- ・自由意見では、「深い感銘を受けた」「命についてもう一度深く考えることが出来た」「大きな刺激となった」など。

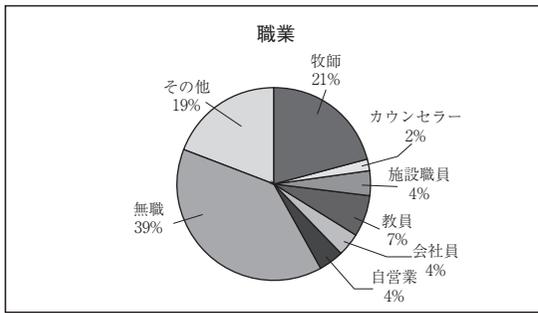


グラフ

(N/A除く)

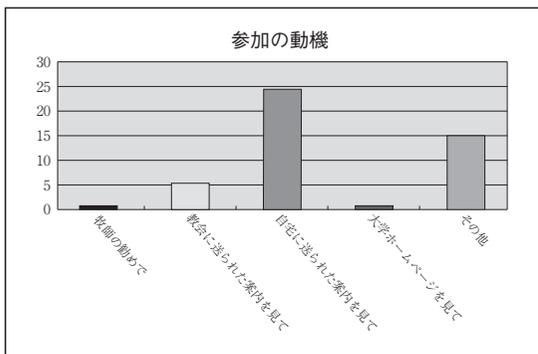


* 回答者の年齢は、「70代」が最も多く38%。次に「60代」26%、「50代」17%だった。性別は、女性60%、男性40%となった。



* 職業別では、「牧師」が最も多く 22%、次に「教員」が 6% となった。

「その他」の内容は、「医師」「訪問ヘルパー」「チャプレン」など。



* 参加の動機は、「自宅に送られた案内を見て」が最も多く、「次に「教会に送られた案内を見て」となった。

「その他」の内容は、「親・友人の勧め」「先生から聞いて」「新聞を見て」など。

今後の講演について

- ・現場で活躍されている先生のお話は大変ありがたく思っています。生活の中にある問題が多く、対応の仕方に困ってしまうことがあります。そういった中での対応の仕方にヒントとなるものが、講演会にはあるように思えます。現場の先生方のお話がある時にはぜひ参加したいと思っております。最初、ここでの講演会に参加させていただききっかけをくれた歯科医師の先生が若くして亡くなられたので大変ショックでしたが、せっかくの機会なので、より良い話を多く聞き、人生の参考にしたいと思えます。
- ・グリーフ・ケアについて学びたい。
- ・池川 明医師は、赤ちゃんの胎内記憶を扱っている。キリスト教的にはありえないが、聞いて、

恐れることは何も無いという思いを与えられた。死すら…。

- ・教会を拠点にしたケアの実践について。
- ・また、同じような講演会をお願いします。ありがとうございました。
- ・『ファイナルアンサー』著者の藤野ともみ氏のお話を聞く機会が与えられれば幸いです。藤野氏は自傷行為を繰り返すつらい状況からサバイブされた方です。この著書は、誠に貴重な記録だと思います。信田さよ子氏が推薦しておられる本でもあります。
- ・1. 国際 (外交)、アメリカ、中国、との外交
- ・2. 社会保障 (医療・介護・年金) 予算・収支について
- ・3. 宗教
- ・脳の老化をいかに防ぐか。また、認知症に関する話など。若い方には関係ないでしょうが、親との関わりもあると思います。
- ・先生の経験の実例を通して本当によく分かった。
- ・命が粗末にされているこの時代「命」「生きることは」など、このような場をこれからも続けていただければ感謝です。
- ・ヘンリー・ナウエンについてのお話をお聞きしたい。
- ・井上ウイマラ氏のお話を伺ってみたい。スピリチュアルケアの関連だけでなく、(援助者が) 瞑想を行うことの効用という感じのお話を伺えるとありがたいです。

自由意見

- ・スピリチュアルケアをどのように教えていくのか。自分のスピリチュアルケアの振り返りなど、色々考えました。
- ・私自身、今年、昨年と祖父、祖母を看取りました。病院にお見舞いに行くと「さみしい」と繰り返していました。自分が来ていて、何でだろうかと最初分からずにいましたが、今回先生ホスピスに関するお話を聞く事が出来たことで、納得することが出来ました。カウンセリングの難しさはつくづく現場で思われている次第です。特に医療の現場では対応に苦慮することだと思います。教育、医療などの現場では多くのお話を聞く機会があり、人と人とのつながりの大切

さを大いに感じております。今回のお話、大変参考になりました。

- ・コミュニケーションレベルの向上を計るために、自分の心を研き上げ、謙虚を身につけ、より所を持つことの大切さを教えていただきました。がん告知を受けた後に感じた不安、理由の分からない悲しさ、特に妻にも説明できない不安感を自分の中で整理しようとしています。キリスト者としての洗礼も受けた身ですが、神様を感じているとはいえ、もどかしさを何とかしたい。自分のがんは命を奪うようなものでない。と理解しているはずなのに、消せない不安。
- ・明確にイエス様による罪の赦しと復活の命を伝えることの大切さを教えられました。
- ・臨床の場での具体的なケア、お話をありがとうございました。わかりやすくクリスチャンとしての姿勢に感動しました。
- ・大変参考になりました。「患者が先輩である」牧師としてもこの自覚が何よりも大切です。
- ・大変貴重なお話を聴かせていただきました。現在やっているボランティア活動（東京自殺防止センター）の中でも、少しでも活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・今回2回目でしたが、大変おもしろく実りある講座が毎回開かれていることを心からうれしく、感謝しております。定年後、アメリカで Gerontology を学んできた者として、まだまだ学ぶべき事が多いのをとてもうれしく思っております。
- ・細死に対峙しておられる方へのスピリチュアルケアの実践の事例を伺い、とても感動しました。私も「死が決して人生の終着駅ではない。天国がある。」という事を心から話して差し上げることが出来たら素晴らしい事だと思いました。
- ・患遠いので少し迷いながら来ましたが、素晴らしい講演内容で来て良かったです。自分の生命をどう活かすか？本当にそうですね。スピリチュアルケアを後見業務の参考にいたします。
- ・はじめは心おきなく旅立つ為に…と考えていた。目に見える世界から姿を消すこと…その変化を通して、当事者達がそれは「大丈夫」なことなのだと思えるためにどうしたらよいのかと

いうことに目が向いていた。しかし、講演が終わる頃、こういう思いが心の中に生じた。「死」を迎えることは「死」を乗り越えることではない。積極的にそれを味わい喜ぶことではないのか…と。

- ・今日はありがとうございました。`命は大切なもの、とばかり思っていました。「命は守るものではなく、命は使うもの。命を使ってどのように生きるか」本当にそう思いました。
- ・逝くときの最期のことばが遺る家族との関係性に大きい影響を与えることを実感しました。そうした心を後半人生で育てていきたいと思いました。素敵なお話でした。
- ・下稲葉先生にお会いできて感謝です。先生のご本を読ませていただいた時に日本でもこのようなホスピス病棟をもつ病院があることに感動し、何かの時には九州であってもお世話になりたいと思ったことを思い出しながら、お聞きしました。姪は「いのちの質を求めて」を読んで、下稲葉先生のような医師になりたいと、現在研修医5年目を迎えています。先生のこれからのお働きの上に更なる主の祝福がありますように。今日はありがとうございました。
- ・キリスト教的な考え方によるこのテーマが私の考え方に、生き方にとっても大きな刺激となりました。
- ・写真の中のスタッフの方々が笑顔がとても印象的でした。「水の説明」より水そのもののお話、納得でした。意義深い学びを心より感謝します。「愛が死に勝っている」と感じました。下稲葉先生、ご家族、患者さんとご家族、スタッフの方々にイエス様の祝福がますます豊に注がれますように心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。
- ・「ドクターと患者ではない。人とひととしての関わり」という言葉が心に残りました（その様なお医者様にであったことはありません）。また「死の前に無力である」と医者である先生があっしやることの重い意味を感じ、同時に先生の謙遜さに心を打たれました。
- ・患者さんはがんを患ったからこそ、命に向き合う機会を得たのだと思いました。特に大病もせ

ずに、年老いた人は自分が死ぬことに向き合えないまま認知症になれば、そのことを考えることもできなくなり、どちらが本当の幸せなのか考えさせられます。

- ・今日のご講演をありがとうございます。下稲葉先生のご講演を伺うチャンスに恵まれたことを感謝いたします。チャプレンとして、貴重な講演に接したのは幸いに存じております。
- ・人とうまく関われないことに悩んでいましたが、「気の合う人は5%しかないという言葉の本を見て、とても気が楽になりました。逆に5%の人を大切にしようという気にもなりました。
- ・数十年前に『いのちの質を求めて』という下稲葉先生の本を拝読し、感銘を受けました。埼玉までおいただけると知り、講演を楽しみにしていました。ありがとうございます。人生の最期の患者さん方にイエス様がはたらいて下さったお話、本当にありがとうございます。
- ・とてもいい講演会でした。ありがとうございます。傾聴ボランティアをしています。苦しみを軽減できるような双方向のコミュニケーションとなるようこれからも頑張ろうと思いました。
- ・施設で介護士として働いていますが、職員と利用者様としてではなく、人間として心から接していきたいと強く思いました。「うそはつかない」「出来るかぎりのことをしていく」心に残りました。クリスチャンではありませんが、神の存在について考えてみたいと思いました。
- ・臨床を通してのわかり易い講演ありがとうございました。死を目前にした患者、家族と医療従事者のケア実践、聴取できましたことを参考に96才の認知症の母（病院入院中）との関係が改善されればと願っています。ホスピス治療が一般的に拡大して欲しいと願います。
- ・家族（夫）のがんにより家族に意識や関わり方、反省すべき事など考えさせられる事がたくさんありました。講演会を聞いて、身につまされる事も多々あり切ない思いでした。死は終わりではないと患者が認める事で救われながら死を待つことに不安を感じるのでしょうか。これからも増え続けるがんホスピス患者のみなさまに平安

を送り続けてください。

- ・「命」についても一度深く考えることが出来ました。感謝です。昨日両親に先立たれ、脳腫瘍を3回にわたって手術し、車椅子の生活をしている友人宅を訪問いたしました。病床にあって信仰をいただき、まわりに支えられて生活しておりますがイエス様を心に迎え入れなかったら今の状況を感じては生きられないと…今日のお話をお聞きしながら涙が止まりませんでした。本当に人は生かされて生きていることを実感しました。
- ・今回は「死」の問題に、一歩も二歩も踏み込んだお話をお聞きすることが出来ました。今後もこのような会を続けて下さい。
- ・今日のご講演ありがとうございます。がん宝くじに4回当たってしまいましたが、2度目の術後元気になった私は、病床ボランティアをさせていただき、患者さん家族から頂きものをいっぱい頂き、元気になり現在に至っておりますが、がんの怖いところは2年目のがんから15年目に転移でまたがんになり、その後又71才でがんの手術をしました。いつまでボランティアが出来るか神様しか知り得ないでしょうが、もう少し人と関わらせて頂こうかと思っています。
- ・経験豊富な臨床に基づいた講演で、大変良かったと思います。
- ・すばらしい内容で感動しました。また聞きたいです。本も買いたいです。
- ・とても素晴らしい講演でした。ありがとうございます。
- ・本日の講演は、患者さん、スタッフが幸せそうでした。
- ・毎年の企画ありがとうございます。
- ・大変恵まれました。ありがとうございます。
- ・大変心に沁みのお話をお伺いしました。
- ・お話を聞いて感動しました。
- ・深い感銘を受けました。